

目次

豊科東小学校周辺の自然観察会の報告 (3) …… (山田徳生) ……	1
平成20年度年次総会報告 …… (事務局) ……	2
第3回「川の自然と文化」講演会報告 …… (事務局) ……	5
せせらぎ (事務局だより) …… (事務局) ……	6

ニュースレター原稿を募集します
意見・要望をお気軽に連絡下さい
会費納入のお願い
助成金情報

豊科東小学校周辺の自然観察会の報告 (3)

山田 徳生

8月18日に、豊科東小学校において、教師の方々と水路の自然観察会を行いました。

学校の職員研修会として企画され、当日は、秋田校長をはじめ18名の教師の皆さんが参加されました。私たちのNPOからは、吉田理事長、事務局の松井、山田が参加しました。観察した水路は、以前にニュースレター (No.2, No.6) で山田が報告したものです。

当日は、午前中に観察会と報告会を行いました。観察会では、3つのグループに分かれ、学校近傍における地下水の流出状況や水路の流量、水温測定、底質観察および生きもの調査を行い、観察の後に教室に入って吉田理事長を中心に観察結果のまとめと意見交換が行われました。



写真2 水路の生きもの観察 (ドジョウが多い水路)

かりました。底質も水田の影響を受けるなどして礫質土、砂質土、泥質土の堆積したところや、水路のコンクリートが露出している場所まで多様でした。



写真1 観察会前の打ち合わせ (学校駐車場)



写真3 サワガニ「団地」の観察

水路の用水の水温は、15℃～19℃の範囲で、主に湧水によって涵養されている一方、家庭排水の流入部では水温が高めになっていることなどが把握されました。流量は、湧水が主体になっている水路で毎分300～400リットルの範囲で変化し、水の出入りがあることがわ

当日は以下のような生物が観察されました (順不同)。今後、以前の調査で見られた種の消長や、季節により見られる種の変化なども調べてみるのもどうかと思います。

平成 20 年度総会報告

事務局

平成 20 年 6 月 28 日、松本市勤労者福祉センターにおいて、平成 20 年度年次総会が開催されました。

ご報告が大変遅くなり、申し訳ございません。その概要をご報告します。

ドジョウ・ヨシノボリ・カジカ／サワガニ／
カワニナ・コモチカワツボ・マメシジミ／トンボ
のヤゴ／
アブ・ガガンボ・ユスリカ・ブユの幼虫、ミズム
シ・シマイシビル
コカゲロウの幼虫、カワゲラの一種、ツツトビケ
ラの幼虫／
トノサマガエル、アマガエル

比較的小さな観察範囲の中に、清流に生息する生物から汚れた水域に生息する生物まで、広い領域にわたる生物が生息していることが把握されました。

当日、教師の皆様が嬉々としてタモの中を観察している姿が印象的でした。また、鋭い観察眼を持っておられるのに感銘しました。

今後、児童の皆さんが、総合学習の時間などで学校周辺の身近な自然の観察を通し、環境や郷土の成り立ちについて学んで行かれたらすばらしいと思います。

私たちNPOにも、学校や地域に協力してやっている仕事が多くあると思います。

最後になりましたが、丸山教頭には観察会の実施に当たって多くのお世話を頂きました。ありがとうございました。



写真4 湧水の源頭（水温の観測）



写真5 まとめ・意見交換会

1. 平成 19 事業報告及び会計報告

(1) 事業の成果

I 運営の総括

創立3年目にあたる平成19年度の活動として、6月の第2回川の自然と文化講演会のほか、自然観察会、あづみの環境フェア2008への参加等を行いました。しかし、9月の理事会で検討したフィールドプログラムの展開に関しては、その具体化を図るまでに至らなかった点は反省材料です。

【活動の基本的スタンス】

- ①川を中心とした水に関する自然、社会、歴史・民俗を調査・研究すること
- ②これらの情報を蓄積し、地域にわかりやすく伝えること
- ③豊かで潤いのある風土—河川・流域環境の保全と創出—を目指し、地域と一緒に活動すること

II 組織運営

平成19年度の組織運営では、理事会による当法人の今後の展開に向けた活動の検討作業、会の紹介活動（環境フェア、研究発表会、ホームページ更新等）を行いました。

今後とも、活動の具体化と担い手の確保、職務執行における収入の確保、活動の対外的な情報発信・アプローチなど、更に積極的な展開を図っていく必要があります。

(1) 会員管理

○会員数 一般18名 学生8名

○会員データ管理：会員登録情報の整備、MLへの登録。

(2)理事会の開催

	開催日	参加者	内容
第6回理事会	9月8日	4名	長野県提出事業報告書について 笹本先生講演記録の公表に向けて 助成金事業について
第7回理事会	4月18日	5名	笹本先生講演記録の公表に向けて(作業経過報告) 総会及び講演会の時期・内容について(第2期事業報告、第3期事業計画について)

(3)事務局会議の開催 2回

(4)ホームページの更新

2 事業内容

本年度活動は、以下に示すとおりでした。

活動テーマとその展開に関して、会内外に方向性を整理・提供し、具体化を図ることが十分できなかった点は反省材料です。次年度は、さらに内外に対して積極的な対応を図っていきたいと考えています。ご支援をお願いします。

■第2回川の自然と文化講演会

- ・講演 「日本人の川と水への意識」(笹本正治氏 : 信州大学教授)
(6月30日 : 松本市中央公民館、約50名参加)

事業計画のテーマ及び内容

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1.河川域の生物多様性及び自然環境保全・再生のための企画、計画、実施及び評価 (環境保全を図る活動)	・プールの水生昆虫調査 ・水路の自然観察会	6/12	安曇野市	5名	多数	0
2.地域伝統文化、歴史記録保存のための調査、整理 (環境保全を図る活動)		10/6		7名		
3.河川域の自然・社会・文化に係わる情報の収集整理 (社会教育の推進を図る活動)	・助成事業の関連情報の収集整理	1/30	天竜川上流域	2名	多数	1
	・長野県内河川の流域別関連情報の収集整理	随時	天竜川上流域	3名	多数	0
4.技術的指導、提言・助言、情報提供、普及啓蒙 (社会教育の推進を図る活動)	・川の自然と文化講演会の開催	6/30	松本中央公民館	12名	約50名	50
	・あづみの環境フェア2008	2/23-24	安曇野市	5名	多数	10
5.環境保全に係わる団体等の活動支援、ネットワーク作り、交流促進 (関連団体との連絡、助言、援助の活動)	・ニュースレターの発行	9/10 1/15	事務所	3名	多数	0
	・地域、大学、行政及び技術者との情報交換	11/28 2/20	松本市 長野市	3名	多数	0

■ニュースレター

第5号(9月10日)

- ・平成19年度年次総会報告(事務局)
- ・第2回川の自然と文化講演会報告(事務局)

第6号(1月15日)

- ・豊科東小学校周辺の自然観察の報告(山田徳生)

■観察会

- ・プールの水生昆虫調査(豊科南中学校 : 6月12日)
- ・水路の自然観察会(豊科東小学校周辺 : 10月6日)

■あづみの環境フェア2008

- ・展示(2月23-24日)(安曇野市)

■その他

- ・第4次長野県水環境保全総合計画 地域懇談会(説明会)(11月28日 : 松本合同庁舎)
- ・千曲川総合学術研究発表会での共同発表(2月20日 : 長野市)
- ・ジャスコ東松本店 幸せの黄色いレシートキャンペーン登録(レシート投函BOX設置)
- ・助成金応募1(長野県NPO助成活動事業 : 松本市街地の湧水の歴史文化自然情報整理)
- ・助成金応募2(伊那谷地域社会システム研究所 : 新たに起こる獣害防除のための獣類移動実態調査事業)
- ・研究集録用写真撮影(2月2日、5月3日、5月18日)

平成 19 年度会計貸借対照表 (平成 20 年 5 月 31 日現在)

科 目	金額 (単位: 円)	科 目	金額 (単位: 円)
I 資産の部		II 負債の部	
1 流動資産		1 流動負債	
現金預金		前受金	18,000
現金	119,052	仮受金	90,000
普通預金	65,280	流動負債 合計	108,000
ゆうちょ銀行	12,000	2 固定負債	0
未収金	20,000	固定負債 合計	0
流動資産 合計	216,332	負債合計	108,000
2 固定資産		III 正味財産の部	
什器・備品	0	前期繰越正味財産	107,213
固定資産 合計	0	当期正味財産増加額	1,119
資産の部 合計	216,332	正味財産合計	108,332
		負債及び正味財産合計	216,332

平成 19 年度会計収支計算書 (平成 19 年 6 月 1 日から平成 20 年 5 月 31 日まで)

科 目	金 額 (単位: 円)		備 考
(資金収支の部)			
I 経常収入の部			
1 会費収入			
・正会員会費	54,000		18 名分 (うち 4 名分 15,000 未収)
・学生会員会費	8,000	62,000	8 名分 (うち 5 名分 5,000 未収)
2 事業収入			
・環境保全を図る活動	0		
・社会教育の推進を図る活動	0		
3 寄付金収入	1,700	1,700	会費振込の差額を入金吉田 1000・長沼 700
4 助成金収入	0		
5 雑収入			
・受取利息	139	139	八十二銀行
経常収入合計		63,839	
II 経常支出の部			
1 事業費			
・環境保全を図る活動	30,000	30,000	
2 管理費			
・図書資料費	3,490		
・人件費	0		
・賃借料	0		
・車輛燃料費	0		
・消耗品費 (コピー代など)	7,360		
・通信費 (電話代・送料)	2,010		
・ホームページ維持・更新	0		
・会議費	14,117		会場費、会議お茶代など
・保険料	0		
・旅費交通費	400		駐車場代
・支払手数料	315		振込手数料
・雑費	5,000		香典
・租税公課	28	32,720	受取利息の源泉所得税
経常支出合計		62,720	
経常収支差額		1,119	
III その他資金収入の部	0	0	
IV その他資金支出の部			
1 固定資産取得支出	0	0	
2 法人税等	0	0	
その他資金収支差額	0	0	
当期収支差額		1,119	
前期繰越収支差額		107,213	
次期繰越収支差額		108,332	

計算書類に対する注記

- 重要な会計方針
資金の範囲は現金預金としています。
- 固定資産はありません。
- 保証債務、担保提供資産はありません。

2. 役員（理事）改選について

役員（理事）の任期は、定款第16条に2年と定められています。設立時期が2月でしたので、実質的な活動期間を考慮して、当初の就任期間は変則的な形をとりました。

次期役員に関しては、体制強化と当会事業の円滑な推進のため、基本的には再任をお願いしたいと考えています。就任期間は、平成20年6月1日より平成22年5月31日までとなります。なお、吾田理事より退任願が出されており、了承することとしました。

これに伴い、法務局への定款の変更届等を行うとともに、大学に所属する理事については、大学学長宛に理事の就任依頼を行います。

役名	氏名	就任期間
理事	吉田 利男	平成20年6月1日 ～平成22年5月31日
理事	笹本 正治	平成20年6月1日 ～平成22年5月31日
理事	戸田 任重	平成20年6月1日 ～平成22年5月31日
理事	中村 寛志	平成20年6月1日 ～平成22年5月31日
理事	島野 光司	平成20年6月1日 ～平成22年5月31日
理事	山本 雅道	平成20年6月1日 ～平成22年5月31日
理事	東城 幸治	平成20年6月1日 ～平成22年5月31日
理事	百瀬 剛	平成20年6月1日 ～平成22年5月31日
理事	松本 章夫	平成20年6月1日 ～平成22年5月31日
理事	松井 一晃	平成20年6月1日 ～平成22年5月31日
監事	長沼 和宏	平成20年6月1日 ～平成22年5月31日

3. 平成20年度事業計画

（フィールドプログラム）

プログラム名	時期	対象	担当
プールの水生昆虫調査（豊科南中学校）	6月9日実施	中学生	吉田、山本
水路ビオトープの自然観察（豊科東小学校）	2回（7,10月）	会員、小学校関係者	山田、松井
放棄水田の植物観察		一般募集	島野、松本
明科白鳥飛来地対岸での水辺観察会	8月？	一般募集	東城、百瀬
松本市街地の湧水路観察	9月？	会員、希望者	百瀬、山本

（研究助成事業）

当会の活動に沿う趣旨の助成事業に対し、積極的に応募する。

会員へお知らせし、作成作業への協力依頼を行う。

（研究集録出版事業）

研究集録第1号「日本人の川と水への意識」（笹本正治氏） 6月発行

「川の自然と文化講演会」講演記録の出版に向けた取り組み

（講師派遣）

内規による運用を図る（ホームページによる案内）

（委託業務への対応）

内規による運用を図る（ホームページによる案内）

（研究集録の作成）

講演会記録、助成事業成果報告、会員自主研究の出版

（事務局・理事会の活動）

円滑な会の運営を図るため、以下に示す活動を進めます。

- ・会員の確保（年内；正会員30、学生会員10、賛助会員5）
- ・情報の収集・発信（出版物の紹介、イベント等の情報収集と案内：随時）
- ・ニュース・レター「川の自然と文化」の発行（定期：年6回奇数月）
- ・研究助成申請、研究助成テーマの選考・周知（随時）
- ・ホームページの改訂作業（随時）
- ・会員登録情報の整備・セキュリティ確保対策（随時）
- ・他のNPO法人等との交流（随時）
- ・「川の自然と文化講演会」第4回開催（平成21年6月）に向けた準備
- ・円滑な総務経理事務（随時；現地調査時保険加入手続き、決算処理、申告、出納管理、会費等）
- ・事務局会議（年4回：6月、8月、12月、4月）、理事会（年4回：6月、9月、12月、4月）の開催

第3回「川の自然と文化講演会」報告

事務局

6月28日に、第3回「川の自然と文化講演会」を松本市勤労者福祉センターにおいて、総会に引き続き開催いたしました。

今回のテーマは、「アルプスの水がもたらす恵みと課題」と題し、3題の講演をお願いしました。

講演タイトル、発表者は以下のとおりです。

①「安曇野のワサビの話」

有賀 均(有賀わさび園代表、信州山葵(わさび)農業協同組合理事)

②「松本平における外来水生生物について」

東城幸治(当 NPO 理事、信州大学理学部生物学科)

③「放棄水田の植生復元のための埋土種子評価」

北川久美子(信州大学大学院)・島野光司(当 NPO 理事、信州大学理学部物質循環学科)

有賀氏からは、安曇野の平地式わさび栽培法を中心に、静岡等の山間地での栽培方法との違い、わさび栽培のプロセス、配慮事項、わさびの辛さの違い、最近の湧水量の減少傾向など、興味深いお話しをしていただきました。

東城先生からは、安曇野に見られる外来水生生物として、コモチカワツボ、フロリダマミズヨコエビ等の分態と分布、在来種オオエゾヨコエビとの生息環境の違いや棲み分け、旺盛な生命力(繁殖力)などホットな話題を提供していただきました。

北川氏からは、近年水田では農薬の使用や圃場整備により水田雑草が減少するとともに、減反政策や農業従事者の高齢化により放棄水田が増加し、水湿植物にとって危機的状況にあることが指摘されました。このため、放棄水田を再生することで、埋土種子が発芽して水湿植物が再生することができるのではないかと、この仮説を立て、環境や履歴の異なる4地区の水田より土壌を採取し、水位を変えて発芽実験を行った結果、植生の復元は可能であり、また農薬を用いた水田では復元は難しいとの結果が報告されました。

講演の記録は、研究集録としてまとめ、次年度発行の予定です。



有賀 均氏



東城幸治氏



北川久美子氏

せせらぎ (事務局だより)

ニュースレターの発行が大幅に遅れまして、申し訳ございませんでした。

◎ニュースレターの原稿を募集します

研究報告、随筆、感想文、紀行文など、水に係わる内容であればジャンルは問いませんので、是非とも投稿をお願いいたします。投稿先は、m-info@smcf.org または郵送でも構いません。よろしくお問い合わせいたします。

◎意見・要望をお気軽に連絡ください

身近な場所だけでなく、新聞等でトピック的なテーマについて観察会・視察の実施、更なる情報の入手等の要望がございましたら、お知らせください。

◎会費納入のお願い

平成20年度会費を未納の方は、納入をお願いします。

郵便振替 口座番号 00530-8-58581

口座名称 特定非営利活動法人 川の自然と文化研究所

NEWS LETTER [川の自然と文化] No.7

2008年12月9日

特定非営利活動法人 川の自然と文化研究所事務局 発行
〒390-8205 長野県安曇野市豊科2209番地11

TEL/FAX (0263)72-3768

HP <http://www.smcf.org> e-mail: m-info@smcf.org